

2022年度事業報告

特定非営利活動法人WE 21 ジャパン都筑

事業概要

2020年1月に感染の始まった新型コロナウイルス感染症は、2022年の夏には、第7波で感染のピークを迎え、その後冬季の第8波を経て、ようやく下火となってきたように見えます。

2022年度は、ショップの休業や時短などを行うことなく、コロナ対策を行い通常営業を続けることができました。4月からは新しいマネージャーも迎え、売り場や季節の企画の工夫、広報の強化を行った結果、お客様の来店も少しずつ増え、11月以降は前年を超える売り上げとなりました。併せて新しいボランティアも増えて、ショップにも活気が戻ってきました。

2021年度分の売り上げ減で申請した事業復活支援金の入金もあり、年度末には黒字となりました。

事業報告

1. 資源のリユースリサイクルを推進する事業

2022年度リユースリサイクル売上 4,752,092 円（目標比 106%、前年比 114%）

2022年度ショップボランティア 新規登録 10名

※月ごとの詳細は2022年度活動実績を参照

実績	売り上げ	顧客数	ボランティア延べ（実人数）	寄付者（新規）
2022年度	4,752,092 円	6,004 人	456 人（13 人）	1651 人（81）
2021年度	4,160,595 円	5,399 人	377 人（16 人）	1637 人（84）
前年比	114%	111%	121%（81%）	101%（115%）
2019年度	5,339,913 円	6,797 人	753 人（19 人）	1853 人（88）

- 1) 適切に感染対策を行い、年間計画通りに活動することができました。年3回のセール及び着物フェアは十分な換気を行い入店制限を実施したうえで開催しました。6月には「雨の日ラッキーくじ」を実施、雨の日を楽しみに来店して下さるお客様もいて来店のきっかけとなりました。毎月1日、15日に何かがお得になる「わくわくデー」は定着し、毎回楽しみにしているお客様が多く来店されています。

	売上	顧客数
アニバーサリーセール	177,290 円	234 人
夏のセール	195,740 円	244 人
着物フェア	263,588 円	135 人
冬のセール	217,715 円	273 人

- 2) 様々な寄付品を整理・管理し、従来の「衣類・雑貨」というくくりを越え、季節感はもちろん、桜や猫などのモチーフ、秋のお出かけ・インテリアといったテーマを設けた売り場づくりをし、商品が最大限魅力的に見えるような陳列をしました。売り場の整理整頓を心掛け、お客様が手に取

りやすく、買い物がしやすくなるよう努力しました。

- 3) 公式ラインやインスタグラムをショップの情報発信に役立てました。公式ラインのお友達登録数は140名以上になり、ショップの情報を直接お客様に届けられる大変有効なツールとなりました。ショップ企画のお知らせや目立たせたい商品の写真などをアップし、それをきっかけに多くのお客様に来店していただき、売上アップにもつながりました。
- 4) 若い顧客の獲得を目指して企画している「お下がり交換会」は4年目となり、タウンニュース、ロコっちなどのメディアに取り上げられました。HP やインスタグラムにも載せているので、「お下がり交換」というキーワードがきっかけで、WE ショップに初めて来店してくださる方が毎年いらっしゃいます。また、今年はフードシェアつづきでもチラシを配布してもらいました。大きいサイズの子供服を集めるなどの努力をし、多くの子育て世代に大変好評をいただきました。
- 5) 昨年度に引き続き、チラシを配架している地域施設からの紹介、ショップでの声掛けにより、10名の方を新しいボランティアとしてお迎えすることができました。今年度はボランティア活動の制限は行いませんでしたが、ショップ内で昼食をとらなくても済むようにボランティアの活動は短時間（2時間程度）にとどまっています。感染状況が落ち着いている期間にはチラシやニュース、HPなどでボランティア募集の呼びかけを行うとともに、活動をお休みしているボランティアに活動再開を促す呼びかけも行いました。

6) リメイクチーム（メンバー9名）

- ・寄付された着物や手芸用品を活用し、リメイク作品として販売をしました。(77点 98,470円)
- ・毎月毎月第4月曜日にリメイクチーム会議を開催し、リメイク作品を持ち寄ったりするだけでなく、合同で小物づくりをしたり、リメイク講座を開催するなど、活発に活動を行いました。
- ・10月リメイク講座 とうがらしのブローチ制作 参加4名
- ・2月1・2日 WE21 着物・リメイクフェア出店販売 41,300円

7) 資源の有効利用

整理整頓を心がけ、衣類は季節ごと、雑貨は品目ごとにまとめて管理し寄付品が有効活用されるように工夫しています。販売できず廃棄になるものを減らすため、今年作成した「寄付していただきたい物・寄付いただけない物」のチラシを活用しました。公式ラインやインスタグラムを使い、広く商品情報を知らせるとともに、見切り品を格安で販売し、廃棄を減らす努力をしました。

ショップという拠点を生かし、羽毛布団の回収を行い、WE ショップが資源の有効活用に取り組んでいることをアピールしました。WE 21 ジャパングループの一員として、家庭での使用済み食用油の回収に取組み、「WE 油田つづき」を継続しました。

本年度も故繊維業者「ナカノ」を通じて衣類のリサイクルに努め、同社が開発したエコ手袋を販売しました。

また、販売できなかった衣類のうち綿製品の一部は、一般社団法人サーキュラーコットンファクトリーへ送り、衣類を繊維にして紙に作り替える活動に協力しました。

■羽毛回収 2022年度 50.9kg(1kg以上 37枚、1kg未満 14枚、ダウンジャケット 23枚)

Co₂削減量 89.6kg 前年比 184%

■廃食用油回収 2022年度 380kg (CO₂削減量 988kg) (前年比 165%)

リサイクル提携先

古布 : ナカノ(株) 横浜市金沢区福浦2丁目 8-8

廃食油 : (株)ユーズ 東京都墨田区八広 3-39-5

羽毛布団 : (一社)グリーンダウンプロジェクト 東京都北区田端 6-4-22

綿製品 : (一社) サーキュラーコットンファクトリー 東京都目黒区目黒 1-1-16 目黒台マンション C308

【日時】 通年

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員5名 ボランティア月平均 46 名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 5,017,466 円

2. アジア等における市民、とりわけ女性の生活向上と自立のための活動を支援する事業（民際支援事業）

1) 民際支援事業

①ACE「ピース・インド・プロジェクト」

店頭で募金箱を設置して、年間募金を呼びかけました。

インドでの協力団体による活動（コロナの影響で学校に通わなくなった子どもや親への働きかけや、親の経済基盤を安定させる「収入向上支援」）について冬ニュースに取り上げました。

ACEの「ピース・インド・プロジェクト」事業が、2023年8月で終了し、その後は現地パートナー団体および住民に託すこととなり、8月からは住民が自ら「児童労働のない村」を維持していけるための準備期間に対する支援として、募金及び年度末剰余から5万円を拠出しました。

助成団体：特定非営利活動法人 ACE

現地NGO：SPEED (Society for people's Economic&Educational Development)

事業名：ピース・インド・プロジェクト

助成金額：50,000円

②「3.11 忘れない」東日本大震災支援

12年前の大震災のことをずっと忘れずに、そして子どもたちの未来を守っていけるように、3月11日のWEショップの売り上げ 48,978円を、いわき放射能市民測定室たらちねに寄付しました。

助成団体：特定非営利活動法人いわき放射能市民測定室たらちね

事業内容：福島第一原子力発電所の事故による被ばくの被害から子どもたちと地域の人々の健康と暮らしを守る

助成金額：48,978円

③イラク・シリア支援 JIM-NETチョコ募金

店頭にてチョコレート置き、募金を集めました。今年度は都筑区内の市民活動団体にも働きかけ、販売につなげました。イラクの小児がんの支援、シリア難民支援、JIM-NETハウスの運営、福島の子どもの支援に使われました。

募金先：特定非営利活動法人 日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）
 事業名：イラクの小児がんの医療支援・シリア難民医療支援・福島の子ども支援
 募金額：111,500円

④「Team Beco」のシリア支援になる年賀状の販売

シリアの子どもたちへの支援として、「Team Beco」の年賀状を購入し、ショップで販売しました。年賀状の収益は経費を除いて全額シリアの子どもたちへ届けられました。

寄付金額：3,000円

⑤ウクライナ緊急募金

2022年2月からのロシアによるウクライナへの軍事侵攻に反対するアピール文をショップに掲示し、国際NGO ADRAJAPANへの緊急募金を店頭で実施しました。

募金額：40,000円

⑥希望の牧場・よしざわ

2022年3月に共催した「希望へのいのち～吉沢正巳と講演会」に参加後、牧場の牛のえさ代として募金しました。

募金額 3,000円

⑦トルコシリア地震緊急募金

2月に発生したトルコシリア地震への緊急募金を店頭で始めました。支援先は、国際NGOの、認定NPO法人 AARJapan（難民を助ける会）としました。

⑧フードドライブ

2021年4月より、毎月1日～10日と期間を決めて店頭で実施しているフードドライブは、毎月寄付してくださる方もあり、地域に定着してきました。食料品のほかに、生理用品などの生活雑貨の寄付も毎月集まるようになりました。

2022年3月から、都筑区内の「フードシェア*つづき」に寄贈先を変更し、一緒に協力しているつづき相談窓口のチラシにも、フードドライブの実施場所としてWEショップつづきを記載してもらい、地域の連携も深めることができました。

「フードシェア*つづき」は、都筑区内でおおまる食堂を中心に、フードシェアをしており、つづき相談窓口の団体が、協力しています。

寄付先： フードシェア*つづき（443点、72kg）（2021年度 362点、100kg）

助成金および募金の総額

	寄付金・助成金	募金	計
ピースインドプロジェクト	43,565円	6,435円	50,000円
「3.11 忘れない」東日本大震災支援	48,978円		48,978円
JIM-NET チョコ募金		111,500円	111,500円
「Team Beco」のシリア支援になる年賀状		3,000円	3,000円
ウクライナ緊急募金（ADRAJAPAN）		40,000円	40,000円
希望の牧場・よしざわ		3,000円	3,000円
合計	92,543円	163,935円	256,478円

2) 民際収益事業

① パレスチナオリーブオイル（常設）・オリーブ石けん（常設）・ザアタルの販売

イスラエル・パレスチナの平和のために設立されたオリーブオイル生産団体のガリラヤのシンデリアナのオリーブオイルとザアタル、パレスチナ西岸地域のナーブルスで生産された石けんを店内で販売しました。

② 森育ちのしょうがパウダー販売（常設）

フィリピンの北ルソンの山岳地域の3つの村の生産者組織が、収入向上と保健事業のために生産するジンジャーティー（しょうが糖）を WE21 グループで計画購入し、店内で販売しました。

③ 森育ちのしょうがクッキー

森育ちのしょうがパウダーを原料とし、横浜市内の社会福祉法人が製造したクッキーを店内で販売しました。

④ シサムコーヒー（常設）

コーヒーの森事業で収穫できたフィリピン北ルソンのオーガニック栽培のコーヒーを店内で販売しました。

⑤ 第3世界ショップから仕入れた食品の販売

フェアトレードフェアの際に本格スリランカカレーが作れるカレーペースト「カレーの壺」、カシューナッツカレー、インド南部のシンガンパティ農園の紅茶、ナッツ類を、2月にフェアトレードチョコレート、店内で販売しました。

*「第3世界ショップ」とは（株）プレス・オールタナティブの輸入・販売部門で、1986年にフェアトレードを始め、日本におけるフェアトレードの草分け。

製品	支援団体	仕入額	販売数
オリーブ石鹸等オリーブ製品	合同会社パレスチナ・オリーブ	48,559 円	オリーブ石鹸 23 オリーブオイル大 13 オリーブオイル小 16 ザアタル 7
森育ちのしょうがパウダー	ウバパス/ダイコン/ランパダ/シュントック財団	32,360 円	41
森育ちのしょうがクッキー	社会福祉法人夢 21 福祉会まどか工房	5,964 円	20
シサムコーヒー	シサム工房	18,194 円	20
カレーの壺、ナッツ類、紅茶 チョコレート	第3世界ショップ	24,891 円	59 10
福島オーガニックコットンタオル		0	1
合計		129,968 円	

【日時】 通年

【場所】 都筑区

【従事者】 運営委員 5名

【受益対象者】 神奈川の市民、アジア等（インド・フィリピン・イラク・シリア・パレスチナ・スリランカ・ウクライナ等）の市民

【事業支出額】 391,603 円

3. 地域市民の国際的な意識の自覚を促進する事業（共育活動）

1) WE 講座 「バーチャルツアー森育ちのしょうがパウダーの生産地に行ってみよう！」をショップ内で実施しました。（2023年2月17日） 参加者 12人

ジンジャーチャイ、ジンジャークッキーの試食も用意し、質問も、活発に出され、参加者からも「知らなかったことを学べた」と好評でした。新しいボランティアを中心に6人のボランティアの参加が得られて、皆でショップで扱っているフェアトレード品のことを学ぶ良い機会となりました。

2) フェアトレードフェアを実施しました。（10月11日～10月15日）

常設のフェアトレード品の他に第3世界ショップから仕入れた食品を販売し、フェアトレード品をアピールしました。フェアトレードとは何かをパネルを作り説明しました。

同時に「WE ショップつづきが薦めるエシカルな暮らし」を書いたカードをお客様に配り、暮らしを見つめることの提案をしました。

3) リメイク講座 「とうがらしのブローチ制作」を 10月24日（月）に開催しました。

参加者 4名 かけはし都筑

着物のハギレを使い、不要になったものも工夫して使うことや、手仕事の楽しさを伝えるリメイク講座を開催しました。制作手順の確認や、キット制作などリメイクチームで準備し、当日に作品を完成させて持って帰ってもらうことができました。

4) 多摩大学グローバルスタディーズ学部の佐藤真紀ゼミ生の訪問を受け入れました。（12月2日）

フェアトレードに関心のある学生さんたちに、WE ショップつづきの地域での活動や、ショップで扱っているフェアトレード品について、説明した後、学生さんたちからは、ショップにお客さんが入りやすくするアイデアなど出してもらい、またショップにある品の中から「お薦めの一品」を選んでもらうなど、お互いに学びの時間となりました。

5) つづき人交流フェスタ（都筑区主催）に参加しました。（3月3日（金）～3月8日（水））

動画と、パネル展示を通じて、リサイクルと民際支援を紹介し、また参加団体同士の交流会に参加して交流しました。

【場所】 都筑区

【従事者】 運営委員 5名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 4,768 円

4. 法人の事業の広報普及を図る事業（広報活動）

1) WE21 ジャパン都筑ニュースを3回（春、秋、冬）発行し、2022年度の支援先一覧、フェアトレード・フェアの案内、ACEの取り組み、チョコ募金のお知らせ等を行いました。

ニュースおよびチラシ作成

	部数	内容	配布対象
4月	4000	支援先決定、2021年度の主な取り組み、アニバーサリーセールのお知らせ	ボランティアによる地域配布
9月	400、1300(生活クラブ用)	フェアトレード・フェア、子ども服おさがり交換会、着物フェア	協力者、ショップ内配布、配架生活クラブつづきコモンズ組合員
12月	300	ACEの児童労働をなくす取り組み紹介、チョコ募金	協力者へ郵送とショップ内配布、地域の配架

2) お客様に渡す、リーフレット（寄付いただきたいもの一覧、500部）とエシカルカード（300部）を作成し、ショップをアピールし寄付を促しました。

3) WE ショップつづき公式LINEへのおともだち登録を呼びかけ、登録者数は140名以上になりました。お客様にショップからのお知らせ、商品情報を直接届けられるツールとして活用し、配信をきっかけにたくさんのお客様に来店していただくことができました。HP、Googleマイビジネス、インスタグラムも活用し、情報発信に努めました。

4) セールのお知らせは、タウンニュースを利用してお客様に周知を図りました。フェアトレードフェア、子ども服おさがり交換会、WE講座しょうがパウダーバーチャルツアーは、タウンニュースに取り上げてもらいました。

センター南の地域情報発信サイト「ロコっち」に、ショップからの情報を載せてもらいました。

5) 都筑区民活動センター等への配架用チラシをこまめに作成し、ショップへの顧客拡大、ボランティア拡大につなげました。

6) フェアトレードの新たな支援先の大きなパネルを作成し、ポスターや、キャンペーン、募金の結果を掲示して、チャリティショップとしてのショップをアピールしました。

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員5名 ボランティア15名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 69,492円

組織活動

1) 運営委員会

円滑な組織運営を目差し、年度当初に運営委員会の年間日程を決定し、十分な協議・検討を行うことができました。

ショップ運営・組織活動等、全体的な活動については、年度当初に運営委員による役割分担を明確化し、各々の方針に沿って実施計画をたてて実行しました。コロナの状況も落ち着かない中、ボランティアの協力を得て、業務を遂行することができました。

会計、税務、法人運営の届け出等については、外部に委託しました。

2) 会員

会員を含め協力者の方々へはニュース発行、SNSの活用などでショップ運営や支援活動をお知らせし、活動に共感してもらえよう務めました。また、フェアトレードフェアやWE講座を通して、支援活動のアピールを行いました。

認定NPO法人として活動や寄付メリットの周知に務め、賛助会員の増加につながりました。

正会員実績 27名 2021年度末 27名 (入会2名、退会2名)

賛助会員実績 15名 2021年度末 11名 4名増 (入会4名)

寄付者 16名

3) ボランティア活動

今年度は、新たに10名の方をボランティアとしてお迎えすることができました。それぞれのボランティアは好きなこと、得意なことを生かして活動しています。コロナ禍に対する不安やそれぞれの事情など、定期的、継続的な活動が難しいボランティアもいますが、折をみて呼びかけをするなど繋がりを保ち、セールや着物フェアなど人手が必要な時には、力を発揮していただきました。

リメイクチームは、リメイク講座の開催、WE21 着物・リメイクフェアに出店するなど意欲的に活動することができました。

4) WE 2 1 ジャパングループとの連携

- ・WE 2 1 ジャパン・グループ会議に参加し、運営に役立てました。
- ・WE 2 1 ジャパンが主催する企画や講座（着物・リメイクフェア、ジンジャーティパーティ、核兵器のない世界は夢じゃない）、会員となっている団体の講座（ストリートチルドレンのリアルを知る）に参加しました。

5) 地域との連携

- ・つづき人交流フェスタ（都筑区主催）のパネル展示と動画、交流会に参加し、活動を紹介しました。交流フェスタでの展示をきっかけに、来店につながりました。
- ・都筑相談窓口におブザー参加し、相談事業や、活動情報、フードドライブを都筑で進める、フードシェア*つづきの活動を共有しました。相談窓口のパンフレットを店頭に置きました。
- ・生活クラブセンター南デポーからの呼びかけで、センター南駅横のスペース「ライブスポット」で子ども雑貨を売り、エンカルカードを配ってショップをアピールしました。(11月5日)
- ・都筑区地蔵まつりに参加した、「ABOUT A HOME」に依頼してWEショップつづきでのお下がり交換会のポスターを貼ってもらいました。その後、「ABOUT A HOME」のお下がり交換会で残った子ども服を寄付してもらいました。
- ・都筑区内にある発達支援教室「たすく」から高校生1名を受け入れ、キャリー便の作業ボランティアを経験してもらいました。
- ・地域通貨「リーフ」を活用して、地域のボランティア活動を応援しました。

【場所】 横浜市都筑区

【従事者】 運営委員5名

【受益対象者】 一般市民

【事業支出額】 244,371 円